

2008.02.27：総務財政委員会

「所管事務について」

池田友信委員

この件については当委員会の中でも論議をされました。あるいは本会議でも出ています。岡委員は一つまとまったというふうな方向性を何か感じられているようではありますが、少なくとも私は前回の委員会の中では問題がありと、考える余地があるという論議をさせていただきましたから。それと、本会議も含めて、やはりこういった地方から出す意見書というものは全会一致でまとまった形を出すべきであるし、そういうふうな形で考えていくなれば、どういう視点でこの意見書というのは、今のこの道路財源の暫定の問題については考えなければならぬかということ考えた場合には、国の財源確保のための立場を考えるのか、あるいは、地方自治体として、仙台市の道路財源が必要なので、交付される財源を求める立場で我々地方議員というのは論議をし意見書出すべきなのか、あるいは、納税者の立場で、納税者の立場を考えて、そして意見書というものを出すべきなのか、この辺、履き違えないような形に我々は考えていかなければいけないと思います。論議の中でもそういうことを十分論議して文言をまとめていかなければ、国の立場を擁護するような形ではこれは意見書じゃないと思うんですね。したがってそういうことを考えていきますと、特に仙台市においても、道路財源は欲しいけれども、じゃあ市民の立場を考えてどういう発言をしたらいいのか、見解を出したらいいのか、その辺を仙台市は十分留意すべきじゃないかというのを前回私は委員会の中で話したつもりであります。

きょう唐突にこの文章を出されましたけれども、実はもう去年の12月に7800万人いると言われる自動車のユーザーから、道路財源に対する反対、一般財源化に対しても反対だと。要するに、今の自動車にかかっている過剰の増税に対する部分は、暫定として30年も出されていることに対して見直してほしいという反対陳情の署名が、もう1035万人の署名が出されているわけです。その中に仙台市民もいます。仙台市民のユーザーの方々も切々と自動車からの増税をやはり見直してくれと、こういう形の陳情を出されているんですから。それは国の方に、政府に出されているんですね。なかなかその中身は感じない部分はあると思うんですが、そういった納税者の悲痛な気持ちを我々市民の代表である議会としては考えていかなければいけないと私は思うんですね。

したがってそういう意味では、先ほど議会としては、委員、まとまっていると。決してまとまっておりませんので、この文面の文言を含めて、表現も含めて、どんな形で意見書を出すのかと。確かに仙台市の方から早くやはり財源確保させてほしいという部分、気持ちはわかりますよ。それはあくまでも道路を

改修するための財源確保ですから。それはいろんな方法あるわけです。これに固定する必要はない。そういうことを含めて、ぜひこれは持ち帰ってやはり十分な論議をして、表現も含めてやらないと、ここで賛否をと言って多数決で決めるなんていうことは、私は好ましくないし、そうすべきではないというふうなことを考えて、ぜひ私、地方議員としては、国の政府の財源確保の立場じゃなくて、やはり納税者の立場でどういうふうに仙台市も含めて考えて意見書というものを出すべきなのかということを含めて、ぜひ考えていただきたいし、そういうことでの論議を各会派でやっていただきたいということを含めて、一つの意見としてこれは持ち帰って論議をすべきだと思います。